

第6次高浜市総合計画推進会議からの提言に対する 行政の考え方と対応

- (1) 財政分科会 (回答：地域協働部財務評価 G)
市の財政状況を学びあおう！ . . . 1
- (2) 自治推進・協働分科会 (回答：地域協働部地域政策 G)
地域活動やまちづくりに参加してくれる人を増やそう！ . . . 3
- (3) 教育・子ども分科会 (回答：こども未来部文化スポーツ G・教育委員会学校経営 G)
教育・子どもをめぐる地域連携のあり方を考えよう . . . 5
- (4) 産業・観光分科会 (回答：市長直轄経営戦略 G)
「これは売れる！(いける!)」情報を集め、
コミュニティ・ビジネスへの関心を高めよう . . . 9
- (5) 環境・憩いの場分科会 (回答：市民総合窓口センター市民生活 G)
最新版「高浜市分別便利帳」を活用してゴミを減らしていこう！ . . . 11
- (6) 防犯・防災 快適な都市空間分科会 (回答：市長直轄危機管理 G)
「まちごと防災マップ構想」を進めよう！ . . . 13
- (7) 地域福祉分科会 (回答：福祉部地域福祉 G)
NEW ボランティア人の発掘 . . . 15
- (8) 健康分科会 (回答：福祉部保健福祉 G)
「いきいき健康マイレージ事業」の推進 . . . 17

財政分科会からの提言

市の財政状況を学びあおう！

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

財政に関する情報が市民に浸透し、市民が当事者意識をもって、市の財政状況を見ています。〈基本計画の「目標が達成された姿」から〉

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・？

- 平成22年度から「わかりやすい予算書」を発行。でも、どれだけの市民の皆さんが知っているのだろう。わかりやすく作成することも重要だけど、どうやって広めていくのかも重要だよ。
- 市の財政について、もっと学びたい、勉強したいと思っている人もいます。
- 行政サイドからの一方的な情報提供（紙面配布）だけではなく、市民の皆さんの生の声（意見・受け止め方）を収集し活用していきたい。
- 地域組織の代表の皆さんに市の財政状況を知ってもらいたい。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- 市民の皆さんを対象とした「わかりやすい予算書勉強会」の開催
- まちづくり協議会・町内会の役員向けの財政運営実態報告会の開催
- 「高浜市の財政」市民向け説明会の開催
- 市内拠点への高浜市の借金時計（デジタル）の設置

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

- 「まちの財政を学びあう勉強会」の開催
これまで行ってきた情報提供に加え、勉強する場を設置することで、市民の皆さんに「まちのおサイフ」事情を学びあっていただき、当事者意識を育てていくことはどうだろう。

〈課題〉

- ① 実施時期、実施回数、実施場所は？
- ② 実施（運営）主体、講師、対象者は誰？
- ③ どのようなプログラム内容にするのか？ など・・・

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 地域協働部 財務評価グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

これまで、市の財政状況の提供については、わかりやすくお伝えすることを重視し、提供の内容や提供の仕方についてさまざまな工夫を凝らしてきたが、市民のみなさんがともに「学びあう」ことができる場を創出することで、これまで以上に情報が浸透することはもちろんのこと、更なる当事者意識の向上が期待される。

行政にとっては、財政を題材とした勉強会は類がなく、新たなチャレンジとなるが、市民のみなさんがお互いに学びあうことで、真の参画・情報共有に繋がるのではないかと考えている。

3. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています

~提言反映に向けての考え方・方向性

提言にあるように、これまで実施してきた「わかりやすい予算書」などによる情報提供に加え、次なるステップとして市民のみなさんが気軽に学びあうことができる場を新たに創出していきたい。

また、学びあうことで、市民のみなさんの当事者意識の向上を図るとともに、市の財政に精通した人材を増やし、将来的には、高浜市の未来を創る市民会議（以下「市民会議」という。）のみなさんを中心とした市民向けの「出前講座」を実施することで、市の財政状況に関心を持っている人の割合の増加に繋げていきたい。

4. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます

~平成24年度の取組方策(案)

アクションプラン	No.4 わかりやすい財政運営事業
取組方策(案)	①「まちの財政を学びあう場」の設置 ⇒まちの財政について学びあう場を、まずは市民会議と位置づけ、市民会議の中で、市民が知りたい・市民に知ってもらいたいといった情報を提供するとともに、市民がお互いに学びあうことができる場を設ける。実施主体は財政分科会とし、対象は、市民会議のメンバーのみなさんとする。開催は、市民会議の日程にあわせることとし、年2、3回程度開催する。

自治推進・協働分科会からの提言

地域活動やまちづくりに参加してくれる人を増やそう！

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

私たちの愛するまち高浜市を未来へとつなげていくために、まちづくりの担い手である私たち一人ひとりが持っている力を出し合い、みんなで高浜市を創りあげていくことが大切です。市民が主体となった自治の進展を図り、互いに手と手を取り合いながら、「住んでみたい」「住んでよかった」「いつまでも住み続けたい」と思える持続可能な活力ある地域社会の実現を目指します。

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・？

- ・ まちづくりに参加する意義・魅力がもっと伝えられたらいいのになあ。
- ・ まちづくりに参加することで、充実感があったり、自分が成長出来たらいいなあ。
- ・ 誰か声をかけてくれたら参加しやすいな。
- ・ 若い人がもっと興味を持って、参加してくれるといいな。
- ・ 子どもと一緒に参加できる活動がたくさんあるといいなあ。
- ・ どんな地域活動があるのかももっと知りたい。
- ・ 成果や変化が目に見えるといいね。
- ・ 参加しやすい環境を整えてほしい。
- ・ 気軽に楽しく参加できるといいね。
- ・ 地域デビューするきっかけ・第一歩が大事だね。
- ・ 地域のいろいろな団体のコミュニケーションがもっと活発になったらいいな。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- ・ きっかけづくり ・ 情報発信 ・ 参加のメリット ・ 地域団体間の交流
- ・ 参加しやすい環境づくり ・ 仲間づくり ・ 気運の醸成
- ・ 地域活動に参加しやすい環境（職員）

⇒詳細は別紙

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

- ① 地域活動と活動参加者のマッチングサイトを立ち上げよう。
- ② 高浜市年間イベントカレンダーの作成など、地域活動の情報発信をしよう。
- ③ みんなが集まれる居場所をつくり、地域活動へつなげよう。
- ④ 子どもが企画・運営（参画）できる事業を実施しよう。
- ⑤ “1人1ヶ月1時間地域活動をしよう運動”を実施しよう。
- ⑥ まちづくりポイント制度を創設しよう。

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 地域協働部 地域政策グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

自治基本条例の推進とは、一人ひとりが持っている力を出し合い、みんなで住みやすいまちを創っていくこと。そのためには、まちづくりに参加してくれる人をいかに増やしていくかがポイントであるということを改めて認識した。

人づくりに教科書は存在せず、参加者を増やしていくための特効薬といったものもないが、「きっかけづくり」「情報発信」「参加のメリット」「参加しやすい環境づくり」「仲間づくり」「気運の醸成」などの観点から、仕組みづくり、環境づくりを、情熱を持ち地道に行っていけば、実はなると信じて汗をかいていきたい。

3. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

提言のうち、実施できるものについては来年度から実施していきたい。また、テーマが大きく検討を要するものについても、来年度からなんらかのアクションを起こし、市民の皆さんが地域活動やまちづくりに参画しやすい仕組みや環境を整えていく次のステージに入っていきたいと考えています。

4. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の取組方策(案)

アクションプラン	No.13 市民自治力推進事業
取組方策(案)	<p>①・② <u>定住自立圏市民活動情報サイトの立ち上げ</u> ⇒サイトを通して、地域活動の団体情報やイベント情報の見える化を図るとともに、イベントへの参加申し込みや地域活動とボランティアとのマッチングを行う。</p> <p>③ <u>まちづくり協議会の拠点施設での交流の場づくり</u> ⇒地域活動への参加は、まず市民同士の交流がきっかけになることが多いため、まちづくり協議会の拠点を活用した交流の場づくりやイベントの充実などの働きかけを行っていきたい。</p> <p>④ <u>「子どもが企画・運営(参画)する事業の検討」</u></p> <p>⑤ <u>「地域活動をしよう運動の検討」</u></p> <p>⑥ <u>「まちづくりポイント制度の研究」</u> ⇒地域や市民の皆さんとの関わりが非常に強いテーマであることから、来年度以降、地域活動団体との連携を図りながら、市民会議でも実現に向けた検討を重ねていきたい。</p>

教育・子ども分科会からの提言

教育・子どもをめぐる地域連携のあり方を考えよう

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

- ・ 地域には自然、文化や歴史など様々な教育に関わる資源がありますが、その中でも、人材は特に大切です。様々な特技や熱い思いを持った人たちが、様々な「学び」の活動に携わることで、地域で子どもが成長するようになってほしいな。
- ・ 教育や子どもの分野を含めて、様々な活動をしている人や団体が、今まで以上に交流することで、個々の活動が盛り上がりあげていきたい！

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・？

- ・ やる気はあるものの、多くの人がどのように関わったらよいか分からないものがある（仲間をつくることができていない）
- ・ 活動されている人が表に出ていけるような環境がないので、情報を発信する場や方法があるといい。
- ・ 様々な活動をうまくつなげられたら…。
- ・ 子どもたちが体験をする機会があればいいな。
- ・ 学校は校長先生が替わると地域との関わり方も変わってしまうから、先生が替わっても同じように地域とつながる仕組みが必要だよな。
- ・ 色々な制度があるのに活かされていないなあ。
- ・ 募集のチラシはたくさんあるけど、実際にやっている人の声を聞く機会があるといいね。
- ・ 「助けてほしい」と思っているところと、「活動を広めたい」と思っているところをうまくマッチングできるといいね。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- ・ 子ども（幼稚園や幼児）の頃から様々な活動を体験してみてもいいかな？
- ・ 企業の厚生イベントの一つとして、「子育て支援」みたいなことを掲げて、普段活動に参加していないような人を巻き込んでみる！
- ・ 人材バンクをつくる！（転入された方に特技などのアンケートをとってみる、企業に依頼して、趣味や特技を分類したリストを会社ごとに作ってもらうとか）
- ・ 学校や園を地域の人々が集まる場として、皆でお茶を飲みながら井戸端会議ができるような環境を用意したらどうだろう？
- ・ 自分の子どもをキッカケに活動へ参加してもらったらどうか？
- ・ 同じ人がずっと活動し続けられないように、新しい人を積極的に組織の中心的存在にしよう。
- ・ 色々な活動は出来る範囲にして、無理しすぎない活動にしよう。

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

◎つながり・連携不足を解消する

【検討のアイデア】

- ① 人材を求める団体（学校など）と地域をつなぐ（マッチングさせる）ような「第三の組織」を作ってみてはどうか？
- ② 学校と公民館みたいな組織同士がもっと連携できるといい。
- ③ 様々な活動をされている皆さんが集まり、情報交換できる場を設けていくことが大切じゃないかな。

【検討にあたっての課題】

- ④ いずれも「人」が大切になる。やる気や熱意があっても、その活かし方を知らない人が多い。その気持ちを昇華するような環境づくりは大切。
- ⑤ 仕事や家庭で時間に余裕がない人が多い。活動は、難しいことじゃなくて、誰でも簡単にできるようなことでなければいけないよね。

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) こども未来部 文化スポーツグループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

- ・ 将来を担うこどもたちを育てるには、家庭や学校だけでなく地域と連携して育てていくことが重要です。それには、人材の発掘、確保が必要になってきます。分科会からの提言は、その解決に向けてのアイデアをいただき、大変参考になりました。
- ・ 人材確保のためには、人が集まる環境づくりも必要であり、市民の方も積極的に情報提供していただけるようご協力をお願いします。

3. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

- ・ 地域や団体、生涯学習施設、行政などが互いに連携・協働して、学んだ成果を誰かに教えたり、社会の中で活かすことができるような仕組みとして「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」を構築し、子どもたちの育成や地域のまちづくりに活かしていく力につなげていきたいと考えています。(「高浜市教育基本構想」で掲げる「学校支援ボランティア」の担い手発掘・活用にもつながります。)
- ・ 学区を基盤として、学校や公民館を利用して子どもと大人のふれあいや共通の体験をする機会をつくる、また、まなび活動をする人の成果や、知識・技能・経験が活かせるよう情報交換の場を設定していきます。

4. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます

~平成24年度の実施方針(案)

アクションプラン	No.16 生涯教育活動推進事業
取組方針(案)	<p>①~⑤ 「たかはま生涯学習プロデュース・ネット」の構築・推進</p> <p>→市民会議や地域団体等を通じて、地域や各分野で活動している人材の発掘を行います。</p> <p>→まなびに関する活動を企画・立案し、活動内容の調整などを行う人材「地域コーディネーター」を養成するための講座を実施していきます。</p> <p>→行政が関与する生涯学習活動の結果を基に、それ以外の活動を市民からの情報提供により補完していきます。</p> <p>→子どもが地域とのつながりを深めるために、総合学習などを利用した職場体験学習や郷土学習などを、地域の人材・団体と連携・協力しながら充実に努めていきます。</p>

教育・子ども分科会からの提言

教育・子どもをめぐる地域連携のあり方を考えよう

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

- ・ 地域には自然、文化や歴史など様々な教育に関わる資源がありますが、その中でも、人材は特に大切です。様々な特技や熱い思いを持った人たちが、様々な「学び」の活動に携わることで、地域で子どもが成長するようになってほしい。
- ・ 教育や子どもの分野を含めて、様々な活動をしている人や団体が、今まで以上に交流することで、個々の活動が盛り上がりあげていきたい！

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・？

- ・ やる気はあるものの、多くの人がどのように関わったらよいか分からない。（仲間をつくることができていない）
- ・ 活動されている人が表に出ていけるような環境がないので、情報を発信する場や方法があるといい。
- ・ 様々な活動をうまくつなげられたら…。
- ・ 子どもたちが体験をする機会があればいいな。
- ・ 学校は校長先生が替わると地域との関わり方も変わってしまうから、先生が替わっても同じように地域とつながる仕組みが必要だよ。
- ・ 色々な制度があるのに活かされていないなあ。
- ・ 募集のチラシはたくさんあるけど、実際にやっている人の声を聞く機会があるといいね。
- ・ 「助けてほしい」と思っているところと、「活動を広めたい」と思っているところをうまくマッチングできるといいね。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- ・ 子ども（幼稚園や幼児）の頃から様々な活動を体験してみてもいいかな？
- ・ 企業の厚生イベントの一つとして、「子育て支援」みたいなことを掲げて、普段活動に参加していないような人を巻き込んでみる！
- ・ 人材バンクをつくる！（転入された方に特技などのアンケートをとってみる、企業に依頼して、趣味や特技を分類したリストを会社ごとに作ってもらうとか）
- ・ 学校や園を地域の人々が集まる場として、皆でお茶を飲みながら井戸端会議ができるような環境を用意したらどうだろう？
- ・ 自分の子どもをキッカケに活動へ参加してもらったらどうか？
- ・ 同じ人がずっと活動し続けられないように、新しい人を積極的に組織の中心的存在にしよう。
- ・ 色々な活動は出来る範囲にして、無理しすぎない活動にしよう。

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

◎つながり・連携不足を解消する

【検討のアイデア】

- ① 人材を求める団体（学校など）と地域をつなぐ（マッチングさせる）ような「第三の組織」を作ってみてはどうか？
- ② 学校と公民館みたいな組織同士がもっと連携できるといい。
- ③ 様々な活動をされている皆さんが集まり、情報交換できる場を設けていくことが大切じゃないかな。

【検討にあたっての課題】

- ④ いずれも「人」が大切になる。やる気や熱意があっても、その活かし方を知らない人が多い。その気持ちを昇華するような環境づくりは大切。
- ⑤ 仕事や家庭で時間に余裕がない人が多い。活動は、難しいことじゃなくて、誰でも簡単にできるようなことでなければいけないよね。

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 教育委員会 学校経営グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

高浜市教育基本構想を策定しました。各学校が、地域のもつ伝統や文化を継承し、地場産業を継承し、さらに新たな文化を創造する拠点となって、家庭や地域と手を携えた教育を推進するためには、地域の先生の力が必ず必要になります。提言の様々な活動をされている皆さんが集まり情報交換ができる場や、地域をつなぐ第三の組織は、基本構想推進にあたり検討していきたいと思えます。

3. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

- ・ 地域と連携し、情報発信をしていく。まち協ホームページ等には、参加した人の感想が書き込めたり、写真を提供したりすることができる。まち協ホームページ等を見ると学校やPTA、地域の団体等の行事・催し物の一覧を見ることができる。そんな取り組みを中心に、地域行事やボランティア活動等に参画する子どもを増やしたいと考えます。
- ・ 高浜市独自の教育カリキュラム作成にあたり、「カリキュラム作成委員会」を立ち上げ、各学年で系統性をもった指導ができるように、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習のカリキュラムを作成していきます。特に総合的な学習の時間に地域の力として「まちの先生」と一緒に授業を創り上げたいと考えています。そのために生涯学習と連携し、人材バンクの開発を進めたいです。

4. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の取組方策(案)

アクションプラン	No.20~24 教育環境整備事業
取組方策(案)	<p>①・④・⑤ 学校支援ボランティアを募集し、人材バンク(漢字・体力作り・囲碁将棋・とりめし・陶芸・菊作り等)に蓄積し、学校の要望に応じ、支援ボランティアを学校に派遣する準備をしたい。やる気の維持と手続きの簡略化も並行して検討したい。</p> <p>② 学校の生活科や総合的な学習の時間、行事などに公民館等と連携し、地域の方の力をお借りし、共に活動できるような単元を設定したい。</p> <p>③ 中学校区で井戸端会議的な場を儲け、保護者同士が子育てや教育について話合える場を作る準備をしていきたい。</p>

産業・観光分科会からの提言

**「これは売れる!(いける!)」情報を集め、
コミュニティ・ビジネスへの関心を高めよう**

1. 目指したい姿 ~ こんなふうになったらいいな! こんなふうにしていきたい!

市民が主体となり、地域の課題をビジネスの手法によって解決し、人と人とのつながりを重視し、関わる人が喜びや楽しさ、いきがい、やりがいを感じながら、地域を豊かにしていく新たなビジネスの芽を育てていきます。将来は、身近な課題解決につながるきめ細やかなサービスの必要性に理解者も増え、実施者・受益者ともに幸せを感じるようなコミュニティ・ビジネスが立ち上がり、地域資源も掘り起こされて、まちの魅力が高まっている姿を目指します。

2. 現状・課題 ~ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・?

- ① 「コミュニティ・ビジネス」の定義・用語などの認知度が低い
- ② マッチング(ex 困りごと⇔解決策、求める人⇔提供できる人)の仕組みが確立されていない。
- ③ コミュニティ・ビジネスを「立ち上げる手法」や「支援策」など敷居が高いものでは?
- ④ 情報の収集・保管・発信の仕組みが不十分
- ⑤ 民間事業者等との競合の心配
- ⑥ コミュニティ・ビジネスへ発展の可能性が感じられても後継者不在で継続性に不安

3. 課題の対応策 ~ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは?

まずは、上記の「2. 現状・課題」で挙げた①「コミュニティ・ビジネス」の定義・用語などの認知度、②マッチングの仕組、③コミュニティ・ビジネスの「立ち上げの手法」や「支援策」に着目します。

分科会では意見交換の中で、②「マッチングの仕組み」につながる様々な「困りごと」があげられ、それに対して実現性も感じられる「解決策」が提案されました。解決策は、まちの魅力アップや観光資源にもなり得るものです。

現状では、これらはまだ個々の身近に点在する「点」ですが、①「コミュニティ・ビジネスの定義・用語などの認知度を上げる」取り組みを行うことによって、様々な場面で発想の転換が生まれ、地域全体を結ぶ「線」に育むことができるはずです。

更には、③「立上げの手段や支援施策」を知ることで、コミュニティ・ビジネス誕生の可能性がいよいよ高まります。

4. 対応策のしほりこみ ~ 特に、ここから取り掛かっていったらどう?

他の分科会の方からの意見も含め、「困りごと」「解決策」の話し合いの中で出てきたアイデアのうち、高浜でも関心が集まると思われたものから、以下の3項目を検討材料としてピックアップしました。今後、特にこの事項について関心のある人に向けての「(1) セミナー開催」や、「(2) 先進事例の視察」をおこなうことを提案します。

- ① 余剰野菜がもったいない → 市民の手で漬物などに加工し販売できないか
- ② 身近な不要物 → 使える物に変身させ、商品化できないか
- ③ アレルギー対応の給食の少数ニーズ → 食に関心のある主婦らで提供できないか

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 市長直轄 経営戦略グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

コミュニティ・ビジネスの必要性やすばらしさを知っていただくためには、身近な場所へ出向き「きっかけづくり」が大切なのことであることを認識いたしました。10月に開催いたしましたコミュニティ・ビジネスの講演会と先進的な事例紹介を含めたパネルディスカッションの参加者の皆さんから「参考になった」「今後は先進事例の調査や支援セミナー開催が必要」などのご意見をいただいております、必要性を強く感じています。

また、今後の進め方は、提言に記述されていますように、人と人とのつながりを重視し、実施者・受益者ともに幸せを感じるような仕組みづくりが、地域を豊かにしていくことであることを基本として進めていきます。

3. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

対応策のしぼりこみの中で、具体的な検討材料のご提案を数点いただきましたが、今後開催予定のセミナー参加者への情報提供、具体的な項目に基づく関係者からの聞き取りによる調査を進め、必要に応じて現地踏査等の機会を設けていきたい。

また、資源の発掘、発想の転換などは、地域の皆さんの身近なつづやきにその種があると考えていますので、検討材料に関係する方々の情報や声をキャッチし、発信できる仕掛けを考えていきたい。

4. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の取組方策(案)

アクションプラン	No.38 コミュニティ・ビジネス創出・支援事業
取組方策(案)	<p>(1) セミナー開催 (2) 先進事例の視察</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度については、本年度進めているセミナーの後半部分の開催を予定いたしており、ご提言いただきました各項目を事例とし、関係する方々からの情報収集、ニーズ調査等の展開を考えます。 今後セミナーで検討されていく、ビジネスプランとのマッチングも視野に入れ、担い手となり得るノウハウと意欲を兼ね備えたプランに対して支援をいたします。

環境・憩いの場 分科会からの提言

最新版「高浜市分別便利帳」を活用してゴミを減らしていこう!

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな! こんなふうにしていきたい!

ごみの減量化やごみ出しマナーの向上のため、可燃ごみや分別の仕方をわかりやすく説明する「ごみ分別便利帳」を、今年度、市民会議メンバーの意見を取り入れリニューアルします。

今後は、この最新版「ごみ分別便利帳」を活用して、ごみの分別精度やごみ出しルール・マナーの向上、ごみの減量化に結びつけていきます。

ひとりひとりに手近なところから取り組んでいただき、ゴミの量を確実に減らしていくことを目指します。

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・?

- ・ ごみ出しルールの徹底やマナーの向上が難しい。
- ・ 不法投棄・ポイ捨てをやめさせたい。
- ・ リサイクルの向上を目指して、分別方法をもっとわかりやすく説明するには、どうしたらいいか?
- ・ 家電リサイクル法のほか、クリーンセンターや不燃物埋立場の利用方法など、ごみ処理に関する情報をもっとお知らせしたい。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは?

- ・ 「分別便利帳」を手にとれるところに置いて、折にふれて活用して欲しい。
- ・ 分別方法についてもっと理解してもらうために、リサイクル事業所の現地調査などを実施したらどうか?
- ・ 家電リサイクル法(テレビ、エアコンなど)やパソコン、自動車・二輪車のリサイクルシステムについても、もっと知っていただく工夫をしてはどうか?
- ・ 今回は、外国人メンバーの視点も入れて、これまでにない「分別便利帳」を目指している。引き続き、分別する立場に立った情報や意見の収集をしていってはどうか?

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう?

- ① 「便利帳」の中身を必要時に再確認してもらおう。そのために・・・
例1) 家電リサイクル法にかかるもの(テレビ、エアコンなど)やパソコン・自動車・二輪車といった大きなものから、衣料品や紙類などごく身近な品のリサイクルシステムについて、排出の見込まれる季節に合わせて広報などで紹介する。
例2) 「生ごみや草木は乾かせば、かさや重さを減らすことができる」というような、ちょっとしたポイントとして「ごみ出しのマナー」を紹介したり、ボランティア清掃用のゴミ袋「奉仕袋」の支給制度などについてお知らせしていく。
- ② リサイクル事業所の現地調査(見学会)などを実施したらどうか?
- ③ 「新高浜ごみ処理基本計画」の下支えになるよう、市民の立場からの意見・アイデアを蓄積していく。

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 市民総合窓口センター 市民生活グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

○ご提言の「目指したい姿」に、「最新版『ごみ分別便利帳』を活用して、ごみの分別精度やごみ出しルール・マナーの向上、ごみの減量化に結びつけていきます」との想いをいただいたことは、「ごみ分別便利帳」を作って終わりにさせるのではなく、しっかりと、ごみ出しルール・マナーの向上、ごみの減量化に繋げる必要があると強く感じました。

3. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

○市民会議メンバーや環境・憩いの場分科会メンバーの意見を取り入れ、子どもから高齢者、また、外国人の方々にもわかりやすい新たな「ごみ分別便利帳」を作成し、平成23年12月から市民の皆さんに配布をしています。
○転入者、町内会未加入者の方へも「ごみ分別便利帳」を活用し、きめ細かな説明を行います。
○市民の皆さんには、「ごみ分別便利帳」を手にとれるところに置いて、折にふれ活用していただくとともに、市民ひとりひとりの参加による、ごみ減量化へのご参加・ご協力をいただき、取り組んでいきたい。

4. 提言(対応策のしぼりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の実施方策(案)

アクションプラン	No.42 ごみ減量リサイクル推進事業
取組方策(案)	<p>①高浜エコハウスにおいて、「ごみ分別便利帳」を活用し、市民や児童・生徒が楽しみながら、ごみ分別について一緒に学び合い、競い合う場である「分別大相撲」を開催していきます。その際、ごみ出しマナーや減量化のコツ等についてもPRを行い、各家庭における更なる分別精度の向上を図ります。</p> <p>②ごみ分別の側面だけでなく、環境学習の側面も含め、毎年夏休みに実施しているエコニコツアーの視察先として検討を進めます。</p> <p>③分別拠点の巡回時や電話等で寄せられる市民の意見・アイデア・苦情等を収集し、今後の「新高浜ごみ処理計画」の策定に役立てていきたい。「市民会議」や「分別大相撲」等でもアイデアを集めたい。</p>

防犯・防災 快適な都市空間分科会からの提言

「まちごと防災マップ構想」を進めよう！

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

- ・ 「こちらの方向に向かったら地盤が高い」「避難経路はこちらの方向」「過去の浸水高はここまで」といった情報を、まちなかに「見える化」し、普段から地震・水害等に対する意識・関心を高める。
- ・ また、「いざ」という時には、地域住民だけでなく、通勤者や来訪者も含めて、誰もが迅速に避難できるようにする。

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・？

- ・ ハザードマップなどの紙媒体の情報はあがるが、1度読んだら“お蔵入り”になりがちである。
- ・ 転入者が増え、地域で過去に起こった大きな災害（例：伊勢湾台風、東海豪雨）の情報が、あまり知られていない。また、長い時間が経過し、災害が風化しつつある。
- ・ 現在は、東日本大震災の教訓が整理されていない段階であることから、今年度は第1段階「津波・高潮予防対策」「水害予防対策」として、避難所や被災を受ける恐れがある地域を対象に、「この道路の高さは●m」といった地盤高の表示に取り組むこととしている。
- ・ 国や県で被害想定調査や防災計画の見直しが行われており、最新の被害予測情報・被害想定情報を待つ必要がある。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- ・ 災害を風化させず、意識を喚起するために、過去の被災履歴（伊勢湾台風や東海豪雨の浸水高）の表示や、避難経路（どちらの方向に逃げたら高い場所なのか）などの情報も、表示していく。
- ・ 最新の被害予測情報・被害想定情報に基づいて、段階的に各種情報の「見える化」を進めていく。
- ・ 誰もがわかりやすいように（誤解のないように）、表現方法（専門的な用語は使わない）、文字の大きさ・書体、色、サインの設置高さなどに気を配る。
- ・ 防災意識の向上に向けては、単にハード（サイン設置）を整備すればよし、ということではなく、この整備を契機にしたソフト方策もあわせて考えていく必要がある。

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

- ①この提案は、当分科会の実行テーマ「標高の見える化を考えよう！」から端を発しています。「実行テーマ」発表の際には、他分科会のみなさんからも「作るだけではなく、どう活用するかを聞きたい」「ウォークラリーを企画して、低い所のチェックと、避難する時に目指すべき高い所を知るイベントをして欲しい」といった意見・提案がありました。“作って終わり”にしないよう、効果的なソフト方策もあわせて考えていく必要があります。
- ②国や県の動向を踏まえてということにはなりますが、防災意識の向上、安全・安心が実感できる基盤づくりのために、市民と行政が力を合わせて、できることから一歩ずつ進めていけたらと思います。

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 市長直轄 危機管理グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

- ・総合計画の目標である「安全・安心が実感できる基盤づくりを進める」ためには、地域住民の不安を減らすとともに、「自らの安全は自らが守る」という意識を高めていくことが重要です。
- ・東日本大震災以降、自分の住んでいる地域の高さについての質問が多く寄せられていました。今回ご提言いただいた「標高、避難経路、過去の浸水区域の見える化」は、従来のハザードマップとは異なり、日常生活の中で自分の住んでいる地域の高さや、避難場所について知ることができるため、危機・災害発生対応能力の向上に役立つ有効的な手段であると感じました。

3. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

- ・現在、国の中央防災会議と愛知県が、東海・東南海・南海地震の3連動地震をはじめ東日本大震災の被害状況の分析も含めた、新たな被害想定を調査している段階です。
- ・そのため、「まちごと防災マップ構想」については、今現在できることから取り組んでいくこととし、平成23年度は、市内約600箇所に「高さ表示」を進めているところです。
- ・平成24年度以降は、最短の避難場所や避難経路についての検討を行い、避難場所や避難経路の表示を進めていきますが、新たな被害想定が出た段階(平成25年夏頃の予定)で、避難所の見直しを含めて、再度、表示箇所等の検討を行っていきたいと考えています。

4. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の実施方針(案)

アクションプラン	No.52 防災ネットワーク推進事業
取組方針(案)	<p>① 今年度整備する約600箇所の「高さ表示」の活用策として、様々な団体と協力して、小学生を対象に、標高の低い場所から高い場所への移動や最短の避難所へ移動などを、「ウォークラリー」といった、楽しみながら知識等が身につく機会をつくっていきます。</p> <p>② 防災意識を向上させるためには、より多くの人と情報を共有することが大切であるため、平成24年度も地域と協力しながら、避難場所や避難経路についての表示を実施します。また避難所以外の公共施設、地域住民が立ち寄りそうな場所(スーパーやコンビニ等)にも、高さを表示していきたいと考えています。</p>

地域福祉分科会からの提言

NEWボランティア人の発掘

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

多くの市民の方がNEWボランティア人になったらいいな！

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は…？

- ・ なかなか地域の行事に参加できない。
 - ・ ボランティアをする時間・余裕がない。
 - ・ 地域とのつながりができていない。
新しく引っ越して、地域の人を良く知らない。
 - ・ チャレンジドにとって地域の行事は参加しにくい。
障がいがあるので、地域に参加できる行事が少ない。
チャレンジドの親は、地域に出て行くのが不安。
- 地域のことに目を向けられていない。
→ 気づきがあれば、New ボランティア人につながるのでは？
- 例えば、散歩時に近所の一人暮らし高齢者の方の安否を確認しているなど、本人にはボランティアという認識がなくても、十分に地域の支え合いに貢献している。これもNEWボランティア人！

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- ◎ わくわくフェスティバルで実施するアンケートの結果を反映していく。
- ◎ 防犯・防災分科会との連携した取組み
まち協など、いろいろな市民に被災地での障がい者や高齢者の状況を知ってもらい、高浜では地域で障がい者や高齢者が自然に受け入れられるようなつながりを作っていく。
- ◎ 地域で誰もが参加できるスポーツイベントなどの機会の創出
スポーツイベントなどを新たに創出するのは困難。既存の地区運動会など地域の中で障がい者も受け入れられるよう、まち協などの地域や当事者へ呼びかけていきたい。
- ◎ New ボランティアの現状の分析
まずは、現状把握も必要。

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

- ① 11月6日(日)の「わくわくフェスティバル」でアンケートを実施
アンケートから出てきた声を拾い上げ、次年度につなげたい。
- ② 他の分科会と連携した取組みの推進
地域福祉分科会、防犯・防災分科会他が共催となって、東日本大震災の教訓を生かした勉強会などを広く市民に向けて実施し、次年度以降も災害に備えて地域のつながりを高める取組みを行っていく。
- ③ New ボランティアの現状の分析
まずは現状把握をしなければ。

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 福祉部 地域福祉グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

超高齢社会や障がい者の地域移行が進む中、今後、地域でどのように支えていくかが課題であるが、今回の提言は、余裕がなくてボランティア活動に参加できない方でも、少しの気付き、地域に目を向けていただければ、誰もが地域における支え合いの担い手になり得るといった、課題に対する解決策のヒントをいただいた。

また、高齢者や障がい者と地域とのつながりを高める取組みに他の分科会と連携することは大切なことであり、今後の取組みにぜひ取り入れていきたい。

3. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

- ・わくわくフェスティバルでのアンケート結果を基に、NEW ボランティアの現状を把握するとともに、アンケートから出てきた声を分析し、NEWボランティア人を増やす取組みを地域団体や社会福祉協議会と連携して行っています。
- ・他の分科会との連携では、例えば、防災フォーラム、避難所等における訓練や運動会などを通して、高齢者や障がい者と地域住民がつながることができるよう、関係分科会や関係団体等への幅広い協力を働きかけ、実施につなげていきます。

4. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の取組方策(案)

アクションプラン	No.6 1 地域の「つながり、支えあい」応援事業
取組方策(案)	<p>①アンケート結果では、「NEWボランティア人」を増やす方策として、「市民への周知」「地域交流の場づくり」の声が多かった。そのため、PR用パンフレットを作成し全世帯配布するとともに、支援が必要な方の支援策について地域の関係者が集まり話し合う場(小地域ネットワーク会議)を設置していきます。</p> <p>②新たな福祉イベントとして、避難所等での避難所運営ゲーム(HUG)や炊き出し等の訓練を関係団体等への幅広い協力を働きかけて開催し、災害に備えた地域のつながりを高めていきます。</p> <p>③福祉イベントでのアンケート調査やボランティアひろばセンターの実態調査などにより、現状把握・現状分析を行っていきます。</p>

健康分科会からの提言

「いきいき健康マイレージ事業」の推進

1. 目指したい姿 ～ こんなふうになったらいいな！ こんなふうにしていきたい！

高齢者の皆さんが、いつまでも健康でいきいきとした毎日を送っていただくとともに、長年培った知識、経験、技能を活かし、地域や社会へ積極的に参加している姿を目指します。

2. 現状・課題 ～ 「目指したい姿」実現に立ちはだかる壁は・・・？

- ・ いきいきクラブなどの団体に入っている人はマイレージを知っているが、団体に入っていない人や知らない人もいると思う。対象者への制度の周知や加入促進が課題である。
- ・ 通帳がいっぱいになったら活動をやめてしまう人もいるかもしれない。
- ・ 登録窓口のいきいき広場に行けない人もいるのではないかな。
- ・ 男性の参加者が少ない。特に福祉ボランティアは男性一人では参加しにくい。
- ・ 地域の活動、まちづくり協議会の活動には活動ポイントがつかない。
- ・ 健康づくり活動のメニューが少ない。

3. 課題の対応策 ～ こんなふうにしたら実行できる、解決できるのでは？

- ・ 健康づくり活動では、保健師と共に個々の健康状態を確認する中で、本人にあった目標を設定することから、生きがい教室や宅老所などへ保健師と社協の職員が出向いて登録をする。
- ・ 各種のイベントや高齢者が集まる機会に案内パンフレット配布し、登録を働きかける。
- ・ 健康づくりメニューの増加

4. 対応策のしほりこみ ～ 特に、ここから取り掛かっていったらどう？

- ① 高齢者のインフルエンザ予防接種の通知や介護保険の通知の中にマイレージ制度の紹介パンフレットを同封していく。
- ② わくわくフェスティバルにおいて、健康マイレージの登録ができる機会を作る。
- ③ 対象となる事業の拡大

提言に対する行政の考え方と対応

(回答) 福祉部 保健福祉グループ

1. 提言をアクションプランに

A. 反映した

B. 一部反映した

C. 反映しなかった

2. 提言をどのように受け止めたか ~感想、参考になった点・理由

いきいき健康マイレージ事業は、健康づくり活動と福祉ボランティア活動の2つの活動に対して、ポイントが付与される制度として開始しました。

より多くの方に事業を知っていただき、登録していただくための具体策や登録するための機会を設けることの必要性など、登録者の増につながるアイデアがいただけた。また、新たなポイント制度としてまちづくり活動ポイントのあり方、福祉ボランティアの登録者が増えるためのヒントがいただけた。

3. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、「こんなふうにしていきたい」と考えています ~提言反映に向けての考え方・方向性

- ・ いきいき健康マイレージ事業の登録者が増加するよう、PR活動を行うとともに登録機会を増やしていきます。
- ・ 健康づくり、福祉ボランティアを実践されている方に、対象者の方が集まる場で楽しさ、活動の魅力ややりがいをお話いただき、活動を始める方がより広がるような機会を作っていきます。
- ・ 自主的に地域で高齢者や障がい者などの見守りや生活の手助けをしている皆さん、まちづくり協議会が行う地域の活動に対しても、ポイントが付与される仕組みを作っていきます。

4. 提言(対応策のしほりこみ)を踏まえて、こんなふうに取り組んでいきます ~平成24年度の取組方策(案)

アクションプラン	No.64 高齢者のいきがいと健康づくり応援事業
取組方策(案)	<p>① 平成23年9月に高齢者のインフルエンザ予防接種のご案内を通知する時に健康マイレージ事業の紹介パンフレットを同封させていただきました。引き続き、介護保険の通知など機会を捉えPRを図っていきます。</p> <p>② 「わくわくフェスティバル」や「ちょいっと健康フェスティバル」などのイベントに参加された方が登録できる場を作ります。</p> <p>③ 健康づくり活動と福祉ボランティア活動に加え、第3の活動ポイントとして地域ボランティアやまちづくり協議会が行う地域活動に対するポイント制度を構築していきます。</p>